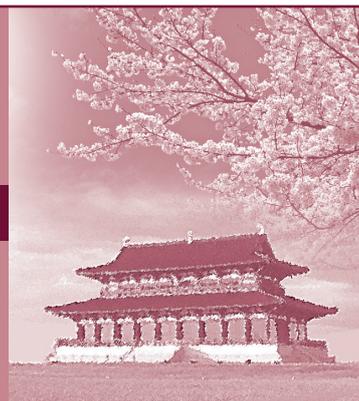


奈良経済産業協会

NARA ECONOMIC AND INDUSTRIAL ASSOCIATION

NEWS

平成25年3月 第3号



平成 25 年 新年会

産業論文コンクール表彰式・特別講演会・交流懇親会を開催

経営委員会主催 (H25. 1. 25)



近東宏光 会長

平成 25 年の新年会は 1 月 25 日 (金) に、昨秋に社団法人奈良経済産業協会として発足して初めて、ご来賓の方々にもご臨席を頂いて、産業論文コンクール表彰式・特別講演会・交流懇親会の構成で開催致しました。

冒頭、近東会長から年頭挨拶として、『昨年末に政権交代があり、元気ある日本を取り戻すため、力強い政策発信が続いた。早速、円安・株高傾向が出てくるなど、今年は大いに期待したい。経済産業協会は、昨秋に工業会と経協が統合して新団体が発足した。2つの団体の強みを活かし、時代の変化に対応しながら、奈良県産業の伸展に寄与できるよう、努力してまいりたい。』と、今年の決意が述べられました。

来賓を代表して奥田喜則奈良県副知事様より、『統合して県内最大の総合経済団体となられた奈良経済産業協会に、奈良県経済の牽引役として頑張ってもらいたい。日本には人材という資源が多くある。人材を活用して産業の育成、地域経済の成長に繋げていって頂きたい。』とご挨拶を頂きました。



奈良県副知事
奥田喜則 氏

今回で第 8 回となる『産業論文コンクール』の表彰式も行われ、近東会長から 9 名の受賞者の方に表彰状と副賞が授与されました。

《受賞者名とその模様については次頁参照》

この後、特別講演として、(株)ローランド・ベルガー会長 (早稲田大学ビジネススクール教授) 遠藤功様を講師に招聘して、ご講演を頂きました。

(要旨は 3 頁に掲載)

第二部の賀詞交歓会は、来賓を代表して荒井正吾奈良県知事様より、『奈良経済産業協会の発足をお祝いしたい。奈良県でも経済産業雇用振興会議を設け、産業振興について幅広く議論している。税収面や雇用面からも、企業の育成と産業の活性化に取り組んでいきたい。』とご挨拶頂きました。



奈良県知事
荒井正吾 氏



奈良県商工会議所連合会
会長 西口廣宗 氏

奈良県商工会議所連合会の西口廣宗会長様から、『統合され一体となられて、奈良県経済の発展のために大いに寄与頂きたい。』とご挨拶と共に、乾杯のご発声を頂いて懇親会がスタートしました。

会場では、会員並びに来賓の方々との懇談の花が咲く中、交流の輪が広がりました。

中締めには、中村副会長から『奈良経済産業協会がスムーズにスタートした。奈良県経済の発展に向け、皆様の期待に応えられるように、会員共々頑張っていきたい。』と挨拶を頂き、今年一年の互いの躍進が祈念され、新年の門出として大変有意義な一時となりました。



第8回 産業論文コンクール

人材育成委員会主催

論文作成を通して、論理的に考える力を醸成し、次代を担う若手従業員に力をつけて頂き、以て企業力の向上を目指すことを目標に、人材育成・自己啓発の一環として「産業論文コンクール」を毎年実施致しております。

皆様から高い評価を頂いて、第8回を迎えることになり、今年度は、16社96通の応募を頂きました。

11月に選考委員会を開催し、厳正な選考を頂き、最優秀賞をはじめ入賞9編を選定致しました。

(受賞者の一覧は下記に記載)

表彰式では、近東会長から賞状の授与の後、住江織物(株)奈良事業所の池田佳加さんが受賞者を代表して、謝辞を頂きました。

『仕事での経験や機会を大切にし、常に学ぶ姿勢や新しい事に挑戦する気持ちを忘れず、自分なりに目標に向かって前向きに取り組んで行きたい。将来、新たな発想で世界の市場を視野に入れたものづくりを武器に、日本の技術や製品を世界に売り込んでいき、日本の未来に貢献したいと思います。』と受賞の喜びと今後の決意を語られました。



住江織物(株)奈良事業所
池田佳加 氏

他の受賞者の方々も緊張した面持ちでしたが、今後のものづくりへの意欲が伺えました。

*選考委員もお願いしている奈良新聞社様のご厚意により、新年会当日の奈良新聞紙面に最優秀賞論文を掲載頂き、参加者の方には新聞をお配りし、お読み頂きました。

続いて、選考委員会の委員長をお願いしている(一財)南都経済研究所 粕井 憲 理事長様から論文全体に対する総評を頂きました。



『最優秀論文は、グローバルな経済環境に対応していくために、教育や人材育成の重要性について、語学力以外に行動力、(一財)南都経済研究所 思考力等をキーワードに論文をまとめられた。従来の日本的な視点ではなく、スピード感を持って、自ら考え解決していくことの重要性について論じておられ、作者の熱意が伝わってきた。他の受賞者の方々もそれぞれ自分自身の考え方をしっかり持っておられ、素晴らしい内容であった。受賞者の方には、論文を通して学んだことを明日からの仕事に活かして欲しい。自ら問題を設定し、自律的に取り組んでいく人材の育成が大切。各企業におかれましては、この産業論文を大いに活用して欲しい。』と継続的な人材育成に向けてエールを頂きました。



第8回 産業論文コンクール 入賞者一覧

賞名	氏名	社名	論文タイトル
最優秀賞	池田佳加	住江織物(株)奈良事業所	グローバル時代を生き抜く術
優秀賞	笹木知佳	(株)サンロード	サポートをする立場として
優良賞	星加恭弥	小山(株)	コモディティな社会
	岡本裕美	ニッタ(株)	私どものづくり
努力賞	河野真緒	(株)アイプリコム	私が目指す道
	知念卓也	住江織物(株)奈良事業所	Made in Company のモノづくり
	宮城真美	GMB(株)	チーム力
	山田靖子	ニッタ(株)	社会人としてあるべき姿を考える
	比良臣伸	(株)ヒラノテクシード	好奇心の活用

『時代を切り開く人材・組織のつくり方』

—— 株式会社ローランド・ベルガー 会長 遠藤 功 氏 ——



(株)ローランド・ベルガー 会長 遠藤 功 氏
現場には、「見える化」以上に、「言える化」が重要である。

現場には、気づき・アイデアがあり、自由闊達に言える雰囲気が必要である。言えない雰囲気が「何も言わない・何も考えない」という思考停止に陥ってしまう。何でも言える雰囲気作りが、経営者・管理者の大切な仕事である。

力のある会社は需要を自分たちで掘り起こし、成長を作ることが出来る。自分たちで次の成長を現場と経営者が一体となって作り出す。

具体例として、山形県鶴岡市の加茂水族館では、偶然展示した“クラゲ”が話題となり、クラゲに特化して、ギネスブックに載る世界一の「クラゲ水族館」となった。当初は、他の水族館をまねた展示であった。独自性・差別化のきっかけは、ちょっとした偶然に気がつく現場があったからこそである。

日本の現場は、気づく現場で、気づく努力をしているから、“小さな奇跡”が起こせ、小さな奇跡が“大きな奇跡”につながる。気づくのは現場で、それをビジネスの形にするのが経営者の役割だ。

経営の3つ要素「ビジョン・戦略・現場」の全てに見直しが迫られている。ビジョンは、10年後のなりたい姿や夢は明確になっているか。戦略は、過去と同じでいいのか、自分たちの価値を再定義して戦略を見直す必要はないか。実行を担う現場は、十分な力があり、やる気になっているか。

現場には、「有事」より「平時」の現場力が重要である。日常の中で、当たり前のこと・平凡なことを、愚直に積み重ねていくこと。“平凡の非凡化”こそが、現場力を生み出すポイントである。

リーダーシップのあり方も重要で、現場力という財産を活かすため、現場にもリーダーシップが必要。現場に権限がないと現場のリーダーシップが劣化する。

日本企業の現場は、能力・当事者意識が高く、競争力の源泉であり、日本の財産である。

現場とは、製造業だけでなく、小売・サービスにもあり、価値を生み出すところ全てが“現場”である。

現場には、「見える化」以上に、「言える化」が重要である。

管理強化は必要だが、バランスをとって、現場の自由度を高めていくことがポイント。

企業の競争力は、経営計画書ではなく、毎日の地道なオペレーションから生まれる。現場が成果を生み出す。強い企業は強い現場を持っている。

その好例が鉄道事業で、故障しないメンテナンスや、新幹線の「短時間での車両清掃」が有名。

与えられた仕事をこなすだけでなく、自分たちで問題を発見・解決する意識を持つことが重要。

現場力は競争力であり、競争相手に戦略はまねされるが、現場力だけはまねできない。そのために、改善を毎日こつこつ積み重ねるしかない。

改善は、小さな奇跡をたくさん作る運動である。

日本では戦略を実行する現場が企業発展のエンジンである。経営層はサポート役に回り、顧客を背負う現場の競争力を高めないといけない。

成長・未来を作る未来創造型企業とは、戦う土俵を合理的に選択し、組織個々の密度を高め、経営者が語る夢を共有し、動きながら考え・判断・決断する「圧倒的な行動の量と質」が求められる。

過去は経営力や情報力で差が付いたが、現代は技術の進歩により優位性が崩れた。行動こそが優位性であり、リアリズムな判断で意志決定していくことが重要で、行動で差がつく時代である。

そのため会社のムード・雰囲気を高めることが重要である。俗に言う“ノリが悪い”現場はうまくいかない。鉄道整備の現場では、士気を高める言葉を集め、“ノリ語集”として広めている。

現場はナイーブで、たった一言で変わる。互いの関係性・コミュニケーションを高めることが大切である。

経営ビジョンはパッションであり、情熱から新しいことが生まれる。それが全員で共有され、現場まで浸透しているか、今一度見直し、ビジョンの共有に大きな時間を割かないといけない。

それが現場力を高め、成長への大きな力となる。



第3回経営者懇話会

人材育成委員会主催 (H25. 12. 12)



㈱京都科学
片山 保 社長

経営者懇話会第3回目は、京都市伏見区にあります㈱京都科学様を訪問しました。

同社は、1948年島津製作所の標本部を継承して設立されました。操業当時の科学教育模型・標本・実験機器等から医学・看護教育分野へと拡大し、特に医学・看護教育用シミュレータで

は国内トップクラスを誇っておられます。

当日は、片山社長様より事業概況と事業展開のご説明のあと、工場・展示室をご案内頂きました。

同社は、小中学校の理科室にあった人体模型や骨格・臓器の模型、博物館向けのレプリカ製作や文化財の修復を主に事業展開されていましたが、少子高齢化に伴い模型製作の需要が少なくなったため、長年培ってきた模型製作技術を生かし、医療教育分野へも展開されておられます。特殊な樹脂を用いて、見た目も肌触りも人体に近づけた模型は、コンピューターが内蔵されており、実際の患者から収集したデータを基に、様々な症例の心音・呼吸音・脈拍を再現し、聴診・触診の練習用として、医師のスキルアップに役立つとのことでした。海外での需要も増え、その繊細かつ高品質な製品は、高い評価を得ておられます。

工場見学では、型取りされた人体模型の加工・仕上や、内蔵されたコンピューターの精度検査等の工程を拝見しました。また展示室では、仏頭等のレプリカや完成した人体模型等を拝見しました。

実際に模造血管内蔵の人体模型を使った採血や心音を聞く聴診体験等をさせて頂きました。

注射器を使った採血では、皆さん緊張した面持ちで臨んでおられました。

本物そっくりな人体模型を見て触れることができ、日本のものづくりの高い技術力をより実感した一日となりました。



第4回経営者懇話会

人材育成委員会主催 (H25. 2. 21)



㈱川勝總本家
川勝康行 社長

経営者懇話会の第4回目は、1917年創業で京都の伝統的な町屋文化を維持しながら、京漬物の製造販売をされておられる、㈱川勝總本家 代表取締役社長の川勝康行様にご講演頂きました。ご講演概要は次の通りです。

京都の会社は、お客様に対して良い物を提供したい、喜んでもらう為には何をしたら良いかなど、相手の事を思う「もてなしの心」を意識している。

社長を継ぐにあたり、多くの方から「商売は信用が第一」「支払いを延ばしたらいけない」と教わり、人に迷惑をかけず信用を得てこそ、商売が成り立つという心構えでずっと経営してきた。

出店していた百貨店が閉店し、年間1億円の売上が落ちて非常に困っていた時も、社員が商品陳列の工夫や呼び込みを率先して実施するなど、奮起してくれたお蔭で全体の売上が下がることなく乗り切ることができた。

また、漬物普及活動の一環で、20年程前から漬物教室や学校への出前教室などを開催しており、お客様に漬物の良さを知ってもらうために頑張っている。

先代から引き継いだ「人との繋がり」を大切にすることや、相手を思いやる気持ちが大事で、社員や周りの方に支えられて今に至っていると実感できる。

今までは家業的な面もあったが、今後は、息子を中心に事業として整備すべき面も進めている。特に、社員教育にも力を入れており、社員一丸となって同じ方向を向いて商売をしていけば次の未来が待っていると考えている。

㈱川勝總本家様の伝統や道徳的な経営の一端をお聞かせ頂き、次の世代への繋げていく大切さを学びました。



第9回マネジメント研修

人材育成委員会主催 (H25. 1. 29)



(一財)南都経済研究所

島田清彦氏

中堅層の体系的な教育活動の一環として管理者に求められる『マネジメント能力育成』を目的に中堅管理職及び候補者の方々を対象として全6回コースで開催しております。

管理者として、自社の経営改善や体質改善の指標となる決算書(財務諸表)の数値を正しく理解することは重要と考え、開始当初からテーマに設定しております。

そこで第4回目は、『決算書の読み方と活かし方のコツ』をテーマに、(一財)南都経済研究所 主席研究員 島田清彦氏に講師をお願い致しました。

基本となる取引の仕訳から、貸借対照表・損益計算表の仕組みと見方、収益と費用の内容、製造原価の内訳、売上総利益～当期純利益までの5段階の利益の内容と計算の仕方をご説明頂き、決算書作成までの流れを理解しました。

基本の説明の後、経営改善に活かすために、①安全性②収益性③成長性④採算性⑤生産性の5つの財務分析のポイントをご説明頂きました。

演習問題では仮データの財務諸表を用いて、経営分析・経営数値の確認・経営状況の判断までを順序立ててご指導頂きました。

また、キャッシュの面から経営状況を知るキャッシュフロー計算書の分析では、『売上が増加すると資金繰りはどうなるか?』について、営業・投資・財務活動の各それぞれのキャッシュフローを計算しました。買掛金・売掛金等の入出金のタイムラグ、借入金・手形の増加・減少等によって、売上や利益が増加しても資金繰りが良くなるとは限らないことを学びました。

今回は、『目標管理と人事評価のあり方』『リーダーシップ醸成とコミュニケーション強化』のテーマについて研修を進めて参ります。



女性リーダー懇話会

人材育成委員会主催 (H25. 2. 22)



帝人㈱
田井久恵氏

女性リーダー懇話会3回目は、大阪市中央区にあります帝人㈱様を訪問致しました。

同社は、高機能繊維・複合材料・化成品・医薬医療等の事業を展開するグローバル企業です。

当日は、帝人グループ理事、ダイバーシティ推進室の田井久恵様に、女性活躍推進・ダイバーシティ推進の取組についてお話を伺いました。

『当社は、2000年に意欲ある女性が能力を発揮できるよう支援をする為に、女性活躍推進室を設置した。2007年にはあらゆる人の人間性尊重・持続可能な働き方の支援の為に、ダイバーシティ推進室へと拡大した。女性活躍推進で一番難しいのは社内意識・風土改革。女性リーダーの育成促進として、女性管理職・総合職の増加を目指し、新卒女性比率を30%、女性管理職を3倍にUPする目標に取り組んだ。男性からは女性を優遇するののかとの発言もあったが、母性保護の観点以外の優遇措置は行わない、採用基準は甘くしない、数値目標は設定するが無理な数合わせはしないことを徹底して取組んだ。現在目標は達成している。人事制度としては、育児・介護休職中の人事考課は昇進要件のみとして休職前の評価を保障している。今後は、経営の意思決定や執行に女性が多く参画できるよう取組みたい。』とお話頂きました。

また、田井様より参加者に『育児や介護等でやりたい事ができないと悲観するのではなく、今は出来る範囲で頑張り、やれる時がきたら全力を出せるように力を溜めておくことも大事。皆さんが現在35歳と仮定して、育児等であと5年間は思うよう働けなくても、65歳まであと25年もあるので大概の事は出来る。家庭と仕事を頑張りすぎて自分を追い詰めず、これからも女性リーダーとして頑張っていって欲しい。』とエールを頂きました。



コスト削減研修

人づくり委員会主催 (H25. 1. 17)

製造コストを下げて利益を確保するため、不良・手直しの撲滅などによる徹底したムダ取りと生産方式見直しによるコスト削減の考え方・手法について、幅広く系統立てて設定し、4回シリーズで『コスト削減研修』を開催しました。

講師には㈱アステックコンサルティングの徳田 勲先生にお願いしました。

第1回の「コストの見える化」では、コストに対する従来の認識を転換するため、直接コストダウンの切り口や生産・設計・調達の仕組みを変えてコストを下げる取組を学びました。

第2回の「リードタイム短縮で在庫削減」では、在庫の基本的な考え方と共に、リードタイム短縮と在庫削減を進めるため、モノ・情報の流れや、生産計画・在庫の適切な制御方法、基本技術の具体的な取組を学びました。

第3回の「生産管理と工程管理の基本」では、生産管理と工程管理の概要と共に、生産計画の立て方・工程のあり方、コスト削減につなげる管理のあり方、工程改善・生産改善のポイントを学びました。

第4回の「きっちり守れる標準化」では、作業標準の仕組み作りや、間違いやミスを防止する仕組み作りについて、標準化から継続的な改善活動へつなげるために、具体的な方法を事例に基づいて学びました。

特に毎回、工程内における様々な事例を取り入れた実践的な演習設定し、気付いた課題や問題点について各グループで整理・意見交換し、課題の対策案をまとめていくなど、現場での課題解決に即した内容であるため、受講者は熱心に取り組んでおられ、各職場ですぐに使えると好評でした。



㈱アステック
コンサルティング
徳田 勲 氏

人事・労務担当者能力アップセミナー

労務委員会主催 (第10回 H25. 2. 14)



児玉総合労務研究所
児玉恭教 氏

当セミナーは、人事・労務に関する様々な課題や、複雑化する労働法令に即した労務管理と就業規則のあり方を学ぶことを目的に、年間10回テーマ別に開催しております。

人事労務の基本業務を学びたい方や、新入社員及び人事労務部門への異動になった方など、多数ご参加いただき好評を得ております。

講師は、社会保険労務士で労働基準監督署の指導員などで活躍されている、児玉総合労務研究所所長の児玉恭教様をお願いしました。

内容は、「労働・社会保険の仕組み」、「労働三法のポイント」、「労働時間管理」、「就業規則・社内規定のポイント」などの各テーマについて、企業現場での実務面と共に、法律の遵守すべき点の両方の視点から、各項目のポイントや注意点等について詳しく講義いただきました。

最終回となる10回目は、「昨今の労働紛争の傾向と対策」について学びました。

監督署に寄せられる労働相談の内容や、労使間での労働紛争判例を事例に基づいて分かり易くご説明いただき、労務問題が起こらないようにご指導いただきました。

また、労務管理上の問題点についてもご指導頂き、自身でチェックすることで、自社の労務管理が適正に行われているかどうかを再確認できることから、今後の労務管理に非常に参考になったと思います。

次年度も人事・労務担当者を対象に、法改正による対応方法を含む労務管理の向上のためにセミナーを実施致します。

是非ご参加いただきたいと思います。



おめでとうございます！
日刊工業新聞『第30回 優秀経営者顕彰』
記念特別賞受賞

同賞は、優れた経営手腕によって企業を発展に導き、技術分野や国際社会、地域社会に貢献した中堅・中小企業経営者の方を表彰しています。



佐藤薬品工業株式会社
代表取締役社長 佐藤 進 氏



記念盾

佐藤薬品工業㈱様は1960年に国内でカプセル製剤製品化に着手し、64年には伊製全自動カプセル充填機を導入されました。佐藤社長様はカプセル製剤充填の独自技術向上につとめ、大手製薬からの製造受託につなげるなど同社飛躍の基礎を築いたとして、表彰されました。

おめでとうございます！
奈良市『ならの子育てほっと企業』受賞

同賞は、仕事と子育てを両立できる職場づくりに、積極的に取り組んでいると認められる優秀な企業を表彰するものです。



株式会社平井眞美館
代表取締役社長 平井 光 氏



記念盾

受賞のコメント

奈良市より第2回「ならの子育てほっと企業」表彰を受け、大変光栄です。

これからも、育児休業期間中を利用した能力向上、資格取得支援等も視野に仕事と子育ての両立支援を少しずつ向上できればと思います。

KAIZEN・改善のすすめ

なぜ改善が必要か？ 改善の基本は5S！（第1回）

企業の永続的発展には、適正な利益確保が不可欠であり、利益向上の売上増加が難しい中では、“KAIZEN・改善”によるコスト削減への取組が最も重要となります。

今後、皆様と“KAIZEN・改善”の基本的な考え方や活動の取組方について、共に考えていきます。

1. なぜ改善が必要か？

冒頭の紹介の通り、利益向上には売上増加が一番考えられますが、取引先の関係や経済・景気動向という外部環境に大きく影響され、自社単独での取組には限界があります。

しかし、コスト削減による利益向上は、自らの強い“意志と努力”により、継続的に取り組むことで、“創り出す”ことができます。逆に言えば、“意志と努力”が欠如または不足したならば、成果が出ないことは言うまでもありません。

継続的に利益・価値を作り出す取組こそが改善活動です。

改善と言えば、製造業を想像しますが、コスト削減・生産性向上が必要なのは、製造業だけでしょうか？顧客満足や付加価値を高める最前線である“現場”がない企業などはありません。

全ての企業に、価値を創造する“現場”があり、その現場力を高めることが最も重要であります。

現場がある全業種（小売り・サービス業等）・全職種（事務・販売・サービス等）で取り組むことができるのが“改善活動”です。実際に製造業以外でも、医療・介護や行政、事務・販売・サービス部門でも取り組まれており、大きな成果を上げられています。

2. 改善の基本は5S！

改善の基本は“5S”とよく言われます。5Sとは、整理・整頓・清掃・清潔・躰のローマ字の頭文字を取った言葉です。5Sは一見分かり易く取り組みやすいので、安易な取り組みや、“片付ける・きれいにすること”と言った誤解が見られます。

5Sは、改善を通して“楽に・早く・確実に”仕事を行うことで、品質の安定・生産性の向上へつなげるための“道具（ツール）”です。

5Sは、“目的”でなく、あくまでも1つの“手法（道具）”であり、5Sという道具を使い、“ムダ・ムリ・ムラ”を省き、改善を進めることでコスト削減を図る。儲かる5Sが真のねらいとなります。

だから“片付ける・きれいにすること”が目的化することには十分注意しないとイケません。

改善の目的・手法の流れは、

目的：利益向上 →手法：コスト削減。

目的：コスト削減→手法：生産性向上

目的：生産性向上→手法：ムダ取り

目的：ムダ取り →手法：“5S活動”

となり、だからこそ、5Sは改善活動の基本と言えます。

3. 継続的な5S活動へ

5Sの5つ言葉の意味は以下の通りです。

- ①整理 … 必要な物と不要な物を区別して、不要な物を処分すること。
- ②整頓 … 必要な物が、誰でも、すぐに取り出せる状態にしておくこと。
- ③清掃 … 身の回りのものや職場の中をきれいに掃除すること。
- ④清潔 … 整理・整頓・清掃を徹底して、汚れのない状態を維持すること。
- ⑤躰 … 決められたことを決められた通り正しく実行できるように習慣づけること。

まとめると、“必要なものをすぐに取り出せる状態（整理・整頓）”にし、“その整った状態を維持すること（清掃・清潔）”となります。

例として、工具や書類を探すことがあります。

探すことは仕事でなく、何の価値も生みません！

“探す”という価値のない作業（ムダや付帯作業）を極小化し、価値を生む作業（正味作業）の割合を高めることが大切です。“探さなくてもすぐに取り出せる”仕組みを作り、ムダを省いて利益を出していくことこそが5S活動の勘所です。

5S活動を継続していくためには、トップ自らが強い信念のもと率先して取り組むこと・継続し続けることが重要です。そして全員が、整理・整頓などの言葉の意味を真に理解して、取り組むことが大切となります。

また、取組の基準・ルールがなく、各人がバラバラに取り組んでも効果は上がりません。5Sの項目ごとに基準づくりが重要となります。

今回は、5S改善のベースとなる基準作りと具体的な取組方について、詳しく見ていきます。



人事・労務の勉強部屋 (第2回)

(社)奈良経済産業協会 (H25.3.11)

====平成 25 年 4 月 1 日から改正される 3 つの制度の概要についてまとめます====

○「労働契約法」改正のポイント

労働契約法の主な改正点は次のとおりです。

1. 無期労働契約への転換
2. 「雇止め法理」の法定化
3. 期間の定めがあることによる不合理な労働条件の禁止

「無期労働契約への転換」(現在の有期雇用者を対象)の注意点は次のとおりです。

①労働者の申し込みにより、無期雇用契約に変更義務化。

有期雇用契約が反復更新されて通算 5 年を超えた時。

②平成 25 年 4 月 1 日以降に結んだ労働契約から対象。

5 年超の労働者を一斉に無期雇用に転換するものではない。

③労働条件の変更を求めるものではない。

無期労働契約＝正社員契約を求めるものではない。

* 詳細については、厚生労働省のホームページでご確認ください。

(http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudoukijun/keiyaku/kaisei/)

○「高年齢者雇用安定法」改正に伴う有期雇用者への対応のポイント

有期雇用者も高年齢者雇用安定法における雇用継続の対象となります。

- ①有期雇用者も希望者全員 **65 歳まで**雇用継続しなければならない。(常時雇用の場合)
- ②一定期間(段階的に引き上げ)の経過措置あり。

(平成 25 年 3 月 31 日までに労使協定で基準を定めることが必要)

経過措置の期間	対象外とできる者
平成 25 年 4 月 1 日～ 28 年 3 月 31 日	61 歳以上の者
平成 28 年 4 月 1 日～ 31 年 3 月 31 日	62 歳以上の者
平成 31 年 4 月 1 日～ 34 年 3 月 31 日	63 歳以上の者
平成 34 年 4 月 1 日～ 37 年 3 月 31 日	64 歳以上の者

* 詳細については、厚生労働省のホームページでご確認ください。

(http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/koureisha/topics/tp120903-1.html)

○「障害者雇用促進法」改正のポイント

障害者の法定雇用に関する主な改正点は次のとおりです。

- ①法定雇用率を 1.8%から **2.0%**へ引き上げ。
- ②適用となる事業主の範囲が、従業員 56 人以上から **50 人以上**に変わる。
(週 20 時間以上 30 時間未満の短時間労働者も 0.5 人でカウント)

* 詳細については、厚生労働省のホームページでご確認ください。

(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/shougaiisha/04.html>)

助けあいの心から生まれた保障

奈良県民共済

奈良県民共済
イメージキャラクター

しょうとくん



ならみん

☎ 0120-019890

奈良県民共済生活協同組合
〒630-8115 奈良市大宮町1-7-14



ハイブリッド車や電気自動車に続く、
みんなが乗れる「第3のエコカー」

低燃費
JC08モード
30.0 km/ℓ※

10・15モード※
32.0 km/ℓ

(国土交通省審査値)
(2WD車)



Photo:ミラ イースG

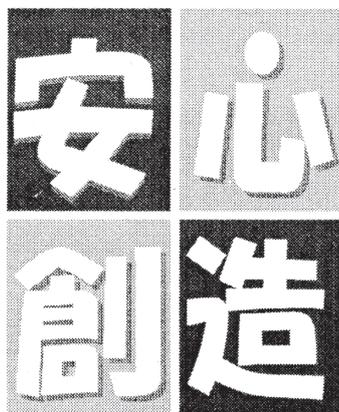
※燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。
なお、JC08モード走行は10・15モード走行に比べ、より実際の走行に近くなるよう新たに設けられた試験方法で、一般的に燃料消費率はやや低い値になります。

もっと軽にできること。
DAIHATSU

奈良ダイハツ株式会社

愛車の点検整備は、しっかりと!

奈良店	奈良市南京終町2-275	TEL (0742) 62-0771
登美ヶ丘店	奈良市中登美ヶ丘3-13-1	TEL (0742) 44-1150
三条大路店	奈良市三条大路4-2-12	TEL (0742) 94-7890
橿原店	橿原市曾我町35	TEL (0744) 23-1381
香芝店	香芝市高150-3	TEL (0745) 76-7211
生駒店	生駒市東松ヶ丘17-17	TEL (0743) 74-2176
郡山店	大和郡山市筒井町531-7	TEL (0743) 84-7700
U-CAR大森	奈良市大森町38	TEL (0742) 23-8717



損害保険特級(一般)・生命保険代理店
南都銀行 友好法人

南都商事株式会社

《本 社》

〒630-8115

奈良市大宮町6-2-1
TEL0742-34-7830

FAX0742-34-7632

《橿原支社》

〒634-0078

橿原市八木町1-1-1
TEL0744-29-5726

FAX0744-29-5708

《橋本営業所》

〒648-0072

橋本市東家1-1-30
TEL0736-33-5246

FAX0736-33-5253

奈良経済産業協会NEWSでは、会員企業様の広告を募集致しております。
詳しくは事務局までご連絡下さい。

森をつなぐ、未来へつなぐ。

1300年という悠久の歴史に守られてきた古都・奈良。

私たちは、その素晴らしい文化や

風土を守り継ぐため、

吉野の森をはじめとする環境保全に取り組んでいます。

緑に包まれた豊かな自然を

お客さま一人ひとりの豊かなくらしを

しっかり未来へつないでいきたい。

南都銀行は、地域とともに、あなたとともに、

豊かな未来を拓いていきます。

ナント・なら・ずっと!

NANTO 南都銀行

南都銀行本店／奈良市橋本町16 <http://www.nantobank.co.jp/>



南都銀行は「Yoshino Heart プロジェクト」を応援しています。

吉野産の杉やヒノキなどから生まれた木製品の普及を通じて、
林業関連産業の活性化や地球環境保全をめざしています。

fAntastic Reality
AR拡張現実×共同精版印刷株式会社

1 Download アプリをダウンロード
2 QRcode QRコードにかざす
3 Enjoy 閲覧を楽しむ

KYODO SEIHAN PRINTING
KSP 共同精版印刷株式会社
http://www.kspk.co.jp/

企画から印刷まで どのような印刷物でもご相談下さい

株式会社
昭文社

☎0742-34-2161
本社 〒630-8031 奈良市柏木町176-1
TEL.0742-34-2161
FAX.0742-34-2196

「この国のあしたを。」
大正の時代からきょうまで。
野村證券は、ずっと見てきました。
どんな困難も乗り越え、何度でも立ち上がってきた、
日本人の姿を。
幾度となく勢いを取りもどしてきた、日本の経済を。
私たちは、信じています。この国のあしたを。

野村證券株式会社奈良支店
〒630-8227 奈良市林小路町45番地
TEL : 0742-22-0351

YAMATO 超人大ライガー 奈良がいい!ナライガー!

◎ソーマンフラッシュ (2枚入り) 300円(税込)
◎ナライガー A4クリアファイル #300円(税込)
◎ナライガーステッカー (60x90mm) #300円(税込)

絵図屋 e-zu ya
ナライガーグッズなら、ならクターショップ | 絵図屋 | ナライガー 検索

株式会社 明新社

事務局だより

代表者変更

- 株式会社積水化成品天理
(旧) 川本 辰己 (代表取締役社長)
↓
(新) 大西 国治 (代表取締役会長)

恒例!平成25年春季親睦ゴルフ記念大会

恒例の、春親睦ゴルフコンペを開催致します。
奮ってのご参加をお待ちしております。
初参加の方も大歓迎!!

日時:平成25年4月19日(金)
8時56分より順次スタート (OUT・IN)
場所:飛鳥カンツリー倶楽部
奈良市二名7丁目1441番地
申込:事務局にご連絡願います。

第17回 新入社員研修会

会員企業の新入社員の方々を対象に、「モノづくりに携わる産業人としての心構えを、しっかり持って頂く」ことを狙いとして、新入社員研修会を実施しております。

ご参加頂いた企業の方々からも例年大変ご好評を頂いております。

多数ご参加頂きますようご案内申し上げます。

とき:平成25年4月3日(水)・4日(木)
2日間9:00~16:30

場所:なら産業活性化プラザ

参加費:16,800円/お一人様

(消費税・昼食費を含む)

定員:80名

申込:ご希望の方は事務局までご連絡願います。

奈良経済産業協会NEWS 第3号

平成25年3月発行
社団法人 奈良経済産業協会

〒630-8031 奈良市柏木町129-1 なら産業活性化プラザ内
TEL(0742)36-7370 FAX(0742)36-7371
http://www.nara-eia.or.jp E-mail: info@nara-eia.or.jp